

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立巨勢小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔かがやく子供」の育成のため、知・徳・体の面から指導を積み重ねてきたが、日々、他者を傷つけてしまう言動や落ち着いて学習に向かない場面が多く見られた。まずは安心して過ごせる学級づくりを目指して、教師の学級経営力や授業力向上を図ってきたい。 ・特別支援学級にも、普通学級にも個別の支援が必要な児童が多い。生活支援員や特別支援学級支援員の支援はあるが、緊急の支援要請も多くある。特別支援教育に関する教員の専門性の向上は、学校全体の教育活動の充実に欠かせない課題である。 ・学習指導、生徒指導ともに、学校全体で行う取組については、全教職員で共通理解して行うことで効果的な取組となる。「あたりまえのことをきちんとする」の達成のために、全教職員が項目を意識して取り組む必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>「笑顔かがやく子供」の育成 ～「本気で」「元気に」「根気よく」取り組むよさに気づき、行動する子供～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>① 自分で考え行動できる児童を育てる ② 「あたり前のことをきちんとする（凡事徹底）」指導の継続・推進・深化 ③ 異学年活動や地域、幼保小中連携など、つながりの中で子供を育てる体制、体験活動の充実</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○全職員で共通理解と共通実践に取り組む。 ○分かりやすい授業の実践を通して、児童の学びの喜びと自己肯定感を高める。	○学力向上対策評価シートの取り組みで、成果として児童評価80%以上。	・一人一台端末を活用した分かりやすい授業の実践と授業終わりの「振り返り活動」を重点的に行う。自己評価の内容を肯定的に捉えさせる。 ・校内研究を通して、単元や教材研究を進め、児童が授業に楽しんで参加できる環境づくりに努める。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達と仲良くできた」と回答する児童が80%以上。 ○「学校は楽しい」と回答する児童が80%以上。	・道徳の学習や人権教室などを通して、自他の良さに気づき、尊重し合う心を育てる。 ・挨拶運動や縦割りグループなどの活動を通して、全職員が児童に関わりを持ち、良さを見つけ称賛する。						
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「困った時に先生や友達に相談できた」と答えた児童が90%以上。	・「いまのきもちカード」「あのねタイム」等を使い、子供の悩みに寄り添い、困り感を早期に発見、解決していくようにする。 ・いじめの早期発見ができるよう、日記などを通して子供の日常が見えるようにする。						
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・教師が児童の良さや頑張りを伝え、児童同士がお互いに認め合える学級づくりを行う。 ・キャリアパスポートを学期に1回活用し、自らの夢や目標を考えさせる。 ・出前授業やゲストティーチャーを迎えた授業づくりを行う。						
●つながりの中で子供を育てる体制、体験活動の充実	○「たてわり班で楽しく活動することができた」と回答した児童90%以上。	○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90%以上。	・月2回程度のたてわり遊び、1年生を迎える会や春の遠足、運動会など、たてわり活動を設定し、異学年交流の場を設ける。 ・1年生と6年生、2年生と5年生がペアとなりトイレ掃除を行うこと等を通して、上級生としての自覚を育む。						
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①週に3回以上、外に出て遊んだり、スポーツをしたりした児童が80%以上 ②朝ごはんを食べた児童が90%以上。 はみがきを1日3回以上した児童70%以上。 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・運動委員会を中心に全校でスポーツチャレンジに取り組むことを企画し、運動に親しむことができるようにする。 ・健康委員会の活動や保健便り、保健指導等を通して、望ましい生活習慣の定着を目指す。月1のいまの気持ちアンケートや学期1回の健康生活チェックで児童の実態を把握し、指導に活かす。 ・交通安全教室や登下校時の安全についての指導を行う。						
	○安心・安全意識の向上	○様々な危機(アレルギー、熱中症、食中毒、けが予防等)に対する管理意識を高めた教員が100%を継続する。 ○防災避難訓練を行い、危機管理意識を高めた教員が100%を継続する。	・学校で起こりうる様々な危機に対応するため、職員研修を行う。その上で、月1回危機管理に関して情報を共有し、改善対応する。 ・防災避難訓練を年に3回以上開く。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・金曜日の終業前10分間を「とのえタイム」とし、服管理・出退勤システムや机上の整理、次週の見通しを持つ等、勤務を円滑に行うための時間を設定する。 ・原則金曜日を「定時退勤日」とするが、週に1日は定時に退勤する日を設ける。						
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「視覚化と見通しを持たせることを意識して指導した」と回答した教員が85%以上 ○「個に応じた対応(学習・行動)ができた」と回答した教員が85%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・配慮が必要な児童についてのケース会議の開催、関係者間での情報共有 ・うまくいった支援等の情報共有						

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○生徒指導	○児童生徒に定着させたい生活目標を達成するための指導の充実	○生活目標を達成することができた」と回答した児童が80%以上。	・全校の集いで生活目標について指導し、各学級で具体的目標を作る。 ・生活目標や学校生活のきまりについて毎週放送をし、児童の意識変容を促す。		

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p>
--------------------	----------------------------------